

豊中市立図書館の「図書館サポーター」導入について
意見書（案）

平成 28 年（2016 年）3 月

豊中市図書館協議会

1. はじめに ー豊中市立図書館の中長期計画とサポーター制度ー

豊中市は、平成 26 年 3 月に「豊中市立図書館の中長期計画（豊中市立図書館グランドデザイン）」を策定し、現在、豊中市立図書館の使命と理念、基本目標をふまえた上で事業の見直しを推進しているところである。

その中で取り組むべき課題の一つとして、自立した市民が豊かに暮らすために社会参画ができる機会と場が図書館に求められており、対応する取り組みとして、28のプランの(27)「図書館サポーター制度」を設定した。具体的には「活動を通じて図書館への親近感、やりがいや生きがいを感じられる機会」や「図書館PRなどの活動の機会と場」の提供を行うこととしている。

これまでも、図書館では、基本目標において「図書館協議会や市民活動団体・市民等の参加や協力を得ながら、「豊中市市民公益活動推進条例」等をふまえて、より魅力的な図書館の運営に努めます」とかかげ、長年にわたり子ども読書活動や障害者サービスなど市民協働の取り組みを進めてきた。今後はこれまでの取り組みとは異なる新たな形となる図書館サポーターの導入をすすめていくこととなる。

このため、事業を進めていく上で「図書館サポーター」の導入にあたり必要な視点や留意点を図書館協議会にて協議し、意見書として提示するものである。

2. 導入の目的と想定される効果

図書館サポーター制度が目指すべき目的と市民および図書館にとって得られると考えられる効果については、以下のようにあげられる。

2-1.目的

- ・新たな形で市民の社会参加の場をつくって図書館の理解者を増やす。
- ・導入によって、これまでにない視点を取り入れることにより、図書館サービスの充実をめざす。

2-2.効果

[市民にとって]

- ・図書館の利用者としてだけでなく、新たな形で図書館とかかわる選択肢が広がる。
- ・参加者にとってのやりがいを感じ、充実感を得られる。
- ・図書館サポーターの経験が自信や誇りになり、個々の生涯学習活動への刺激となって学びの循環へとつながる。
- ・地域でのコミュニケーションが活性化し、社会貢献への参画の意識が芽生える。
- ・自分の居場所としての『場』がある
- ・図書館が調べものをしたり、知的好奇心を満たす場所であるという本来の機能について理解し、生活の中に図書館を位置づけることができる。
- ・若い世代が親以外の大人と話をする経験を積むなど、異世代交流ができる。
- ・図書館のサービスについて、図書館サポーターから新たな視点で提案できる機会となる。

[図書館にとって]

- ・幅広く市民と新たな関係性を育める。
- ・図書館の理念を市民に伝えられる場となり、図書館に対する理解者が増える。
- ・利用者だけでなく、市民が誇りに思える図書館になる。
- ・共に取り組むことで、図書館が提供するサービスを充実させられる。
- ・民間活力（図書館サポーター）を導入することによる活性化。
- ・図書館を市民とともに運営するという図書館職員の意識改革。

3. 導入にあたって図書館に必要な視点や留意点

3-1. 視点

(1) 「(基本として) 個人単位でのボランティア活動であること」

- ・一人でも気軽に参加しやすい活動内容を、わかりやすく広報する。
- ・これまで図書館が取り組んできた市民協働とは別のあらたな参加の在り方をめざす。
- ・参加した人が生きがいや心の豊かさを実感でき、生涯学習を推進するうえでの位置づけとなる取組みにする。

(2) 「図書館の基本的役割としての『資料・情報の提供』を踏まえた上で、図書館として持つべき『場』としての機能も視野に入れ、新しい関係がつくられるようにしていくこと」

- ・図書館本来の機能について知る機会とし、学びによる市民の自立をサポートする『場』。
- ・世代交流や地域との関わりを持てる社会参加の『場』。
- ・参加者にとっては、ともに関わることで図書館という『場』でつながりができ、図書館にとっては市民との新しい関係が作られていく。

3-2. 留意点

(1) 「図書館の理念に沿った活動となるように、参加する市民に対して図書館サポーターの事業目的について丁寧な説明を行うこと」

- ・活動が図書館のサービスとどう結びつくかを実感してもらい、その成果について報告会などを通じて参加者にフィードバックし公表することが大切。
- ・重要なのは、図書館サポーターの仕事量（何をしたのか・アウトプット）ではなく、参加者がやりがい・生きがい・自信等を得ていく成果（何を得たのか・アウトカム）。

(2) 「実施にあたっては、さまざまな側面があるため柔軟性を持たせ、市民にわかりやすく、参加したいと思っていただけるような働きかけ、提示をすること」

- ・情報検索・探索などの利用体験、発表などを実施してイメージしやすくする。
- ・お仕事体験のような講座を実施してきっかけを作る。
- ・わかりやすい内容を示すと同時に、参加者からの声をすくいあげるしくみが必要。